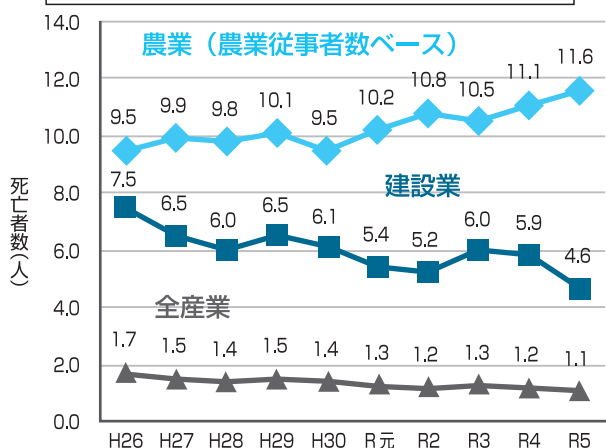


就業人口 10 万人当たり死亡事故者数の推移



安全な農業のために できること

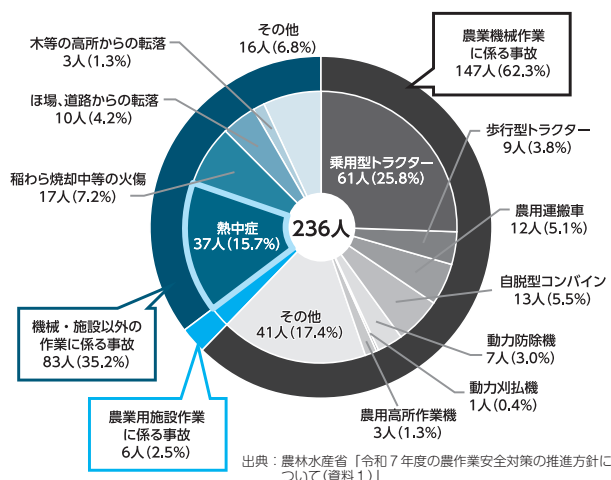
危険な仕事と言われて建設業を想像する方は多いと思いますが、就業人口 10 万人当たりで見ると、農業従事者の年間死亡者数は、建設業の 2 倍以上とされています。日本では毎年約 250 名、埼玉県でも毎年平均 6 名の方が農作業中の事故で亡くなっています。農業は農業機械を扱う機会が多く、高所作業といった危険な作業が多いにもかかわらず、シートベルトをしない、ヘルメットを着用しないなど、他の業種と比べても安全

意識が低いように思われます。農業が危険を伴う産業であるという認識を再度持ちましょう。

1 農作業中の事故を知る

農作業中の死亡事故は、農業機械によるものが全体の 60〜70% と高い割合を占め、その中でもトラクター使用中の転倒・転落事故が多くなっています。また、近年増加しているのが熱中症による事故です。重度な熱中症になると多臓器不全の状態になり、死の危険があります。暑さに身体が慣れていないゴールデンウィーク前後や梅

死亡事故発生状況（令和 5 年）



雨明けは、特に注意が必要です。農作業事故の対策方法を把握し、事故の防止・被害軽減に努めましょう。

（1）農作業時の注意点

農作業中の事故では、シートベルトやヘルメット、安全フレーム等安全装備を適切に使用していれば被害を軽減できていた事例が多く報告されています。他にも機械を動かしたまま点検をして巻き込まれるという状況が見受けられます。作業をする時は、保護具・安全装備を適切に利用し、気になることがあった際は、機械を止めることを徹底してください。声掛けや合図も大きくしましょう。ほ場の危険な場所を目印をつけることや除草により視界を確保することなど、作業環境の整備も重要です。

（2）熱中症対策

農作業中の熱中症対策で大切なことは、高温時の作業を避けること、複数人で作業して異変にすぐ気付くことです。また、熱中症対策アイテムの使用やミストファンといった作業環境の改善も有効です。しかし、時間をずらすことや複数人作業は、品目や経営形態により、難しい場合もあると思います。まずは食事や休息を十分に取る、適度な水分・塩分補給を心掛けるなど、できることから取り組みましょう。

2 安全な労働環境を作る

安全衛生管理の基本に、5S 活動という取り組みがあります。これは整理・整頓・清掃・清潔・習慣の 5 つを指すものです。整理整頓により動線を確保することで、近年増加している「つまづき」による事故を減らすことができます。移動や探し物の時間も減らすことができるため、効率的かつ余裕のある安全な作業に繋がります。また、「見える化」されることで在庫管理が容易になり、余剰注文を防ぐこともできます。労働環境の改善や労働生産性が向上することで、経営の改善にも繋がるのです。

3 農業を続けていくために

「慣れている作業だから」「少しの間だけだから」という気持ちはわかりません。しかし、事故は自分だけでなく、ご家族の生活や地域農業の未来をも変えてしまいます。自然災害や資材高騰を生産者が防ぐことは難しいですが、農作業事故は、安全意識や取組み次第で防止・軽減することが可能です。農業を長く続けるため、また大切な人達やご自身を守るために、農作業を安全なものにしたい、農作業安全についてご家族や地域の方々と話し合ってみませんか？